

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No413

(新著の紹介)

知っておこう！教育データ利活用は不利益も与える

加納圭先生（滋賀大学教授）・水町衣里先生（大阪大学准教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



かのう けい
加納 圭

滋賀大学・教育学部・教授
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科・教授

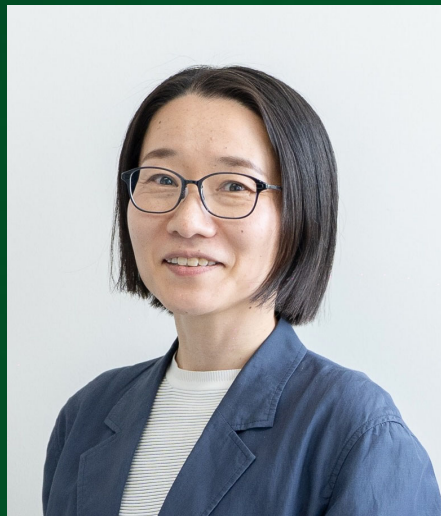
京都大学大学院生命科学研究科修了。博士（生命科学）。京都大学物質-細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS）を経て現職。
一般社団法人社会対話技術研究所の代表理事も務める。

『研究者・研究職・大学院生のための対話トレーニング：きく、伝える、分かち合う』（ナカニシヤ出版、2021）

『Traditional Knowledge for Green Innovation with Japanese Persimmon Tannin, Kakishibu』（Springer, 2026）などの編著書がある



(ご紹介)



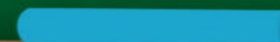
水町衣里

みずまち えり

大阪大学・社会技術共創研究センター・准教授

京都大学大学院農学研究科修了。博士（農学）。京都大学物質-細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS）等を経て，2016年4月より大阪大学COデザインセンター特任助教，2020年4月より大阪大学社会技術共創研究センター特任講師，2022年4月より現職。一般社団法人社会対話技術研究所の理事も務める。

共編著『研究者・研究職・大学院生のための対話トレーニング：きく、伝える、分かち合う』（ナカニシヤ出版，2021）など



プロジェクトの集大成としての本



加速する教育のデジタル化によって、
何が変わり、どのような問題が生じるのか？

学校教員、行政関係者、企業の担当者、研究者など、
教育のデジタルデータ利用に携わる人が直面する重要
かつ喫緊の課題についての現状と指針を示す。教育関
係者必読の、今まさに求められている 1 冊！

炎上事例から倫理的・法的・社会的課題
(ELSI) を解き明かし、対応策を示す！

A5 判・226 ページ 定価 2,970 円 (税込)
ISBN 978-4-7795-1951-2

本の構成

第Ⅰ部 EdTechとその倫理的・法的・社会的課題（ELSI）

- | | | |
|----|-----------------------|-------------|
| 1章 | EdTechの歴史と分類 | 塩瀬・村上 |
| 2章 | “炎上”事例からみるEdTechのELSI | 若林・岸本 |
| 3章 | 米国をミラーに、日本の現在地を映す | 藤村・佐藤・高橋・若林 |
| 4章 | ELSIに対応するための社会技術アプローチ | 岸本 |

第Ⅱ部 倫理学・憲法学・社会心理学から見た論点

- | | | |
|----|----------------------|----|
| 5章 | 倫理学から提起するEdTechの検討課題 | 神崎 |
| 6章 | 「AI教師」の憲法問題 | 堀口 |
| 7章 | 誰が、何を、なぜ、受容するのか | 後藤 |

第Ⅲ部 学校教育を問い直す——AI利活用が開くパンドラの箱

それではご覧ください

その取扱いで大丈夫？ 教育データ利活用のリテラシー

生成AI時代のEdTechが問う学校教育のあり方

今日は、編者の2人をご紹介します



加納 圭

滋賀大学
教育学系



水町 衣里

大阪大学
社会技術共創研究センター
(ELSIセンター)

この本の元になったプロジェクト

JST 社会技術研究開発センター（RISTEX）「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム（RInCA）」

2021年10月～2022年3月

プロジェクト企画調査「学習データ利活用Edtech（エドテック）のELSI
論点の検討」研究代表者：加納 圭（滋賀大学）

<https://elsi.osaka-u.ac.jp/research/1432>

2022年10月～2026年3月

「教育データ利活用EdTech（エドテック）のELSI対応方策の確立とRRI実践」研究代表者：加納 圭（滋賀大学）

<https://elsi.osaka-u.ac.jp/research/1827>

そもそも「ELSI」って??

「ELSIとは、倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues）の頭文字をとったもので、エルシーと読まれています。

新規科学技術を研究開発し、社会実装する際に生じうる、技術的課題以外のあらゆる課題を含みます。」

https://elsi.osaka-u.ac.jp/what_elsi

プロジェクトのこれまで（I）

2021年4月 加納さんからメッセージを受け取る

「学習・教育データを個人の情報に紐づけて蓄積させたり、匿名化した上で教育産業界含めた教育界全体でデータシェアをしてAIドリルなどに活かしていこうとする動きがあるらしく、それに対するELSIについて考えたい。」

2021年10月 まずは、プロジェクト企画調査（＝お試しプロジェクト）としてスタート

なぜ、EdTechのELSIに注目したのか？

1. 悉皆の子どもが対象
2. 国内外ですでにELSIが顕在化
3. 非AI系EdTechだけでなくAI系EdTechが利用され始めてきた中で、そもそも「教育」とは何かを問い直す段階

プロジェクトのこれまで（Ⅰ） 続き

2021年4月 加納さんからメッセージを受け取る

「学習・教育データを個人の情報に紐づけて蓄積させたり、匿名化した上で教育産業界含めた教育界全体でデータシェアをしてAIドリルなどに活かしていこうとする動きがあるらしく、それに対するELSIについて考えたい。」

2021年10月 プロジェクト企画調査（＝お試しプロジェクト）スタート

2022年2月 「EdTechのELSI論点101」 公開

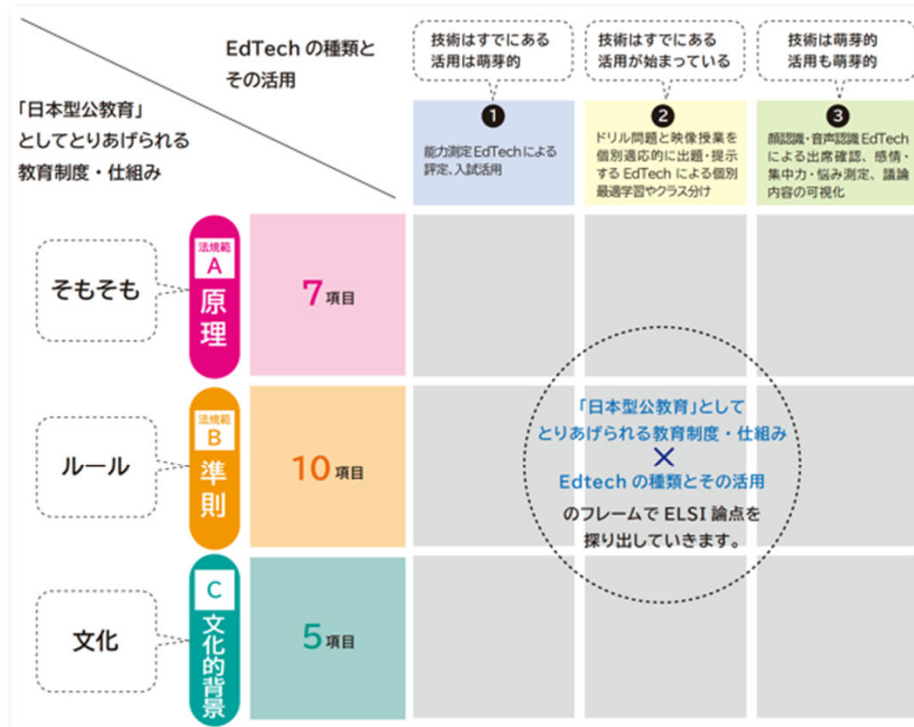
<https://doi.org/10.6084/m9.figshare.25866901>



EdTechのELSI論点101

<https://doi.org/10.6084/m9.figshare.25866901>

Edtechの種類や、日本型公教育の特徴などを整理して、ELSI論点のマトリクスを作ってみた、というもの

[illegible]

プロジェクトのこれまで (2)

2022年10月 新しいメンバーも加わって、本プロジェクト、スタート！

2022年12月 プロジェクトメンバーが集まる合宿で、本の企画書の最初の案が誕生

2024年12月 サイエンスアゴラ in 滋賀「どうなる？ どうする！？ 教育DX」

<https://www.shiga-u.ac.jp/29689/>

グループ	氏名	所属	専門
ELSI伴走グループ (ELSI対応方策の提言やインクルーシブなアウトリーチ／パブリックエンゲージメント活動の実施)	○加納圭	滋賀大学教育学系	EdTech開発・パブリックエンゲージメント
	塩瀬隆之	京都大学総合博物館	EdTech開発・インクルーシブデザイン
	水町衣里	大阪大学ELSIセンター	科学コミュニケーション
	村上正行	大阪大学全学教育推進機構	教育工学
	若林魁人	大阪大学ELSIセンター	EdTech開発・科学コミュニケーション
ELSI調査研究グループ (ELSI論点の整理・分析や根源的問いを探究)	○岸本充生	大阪大学ELSIセンター	ELSI・リスクガバナンス
	神崎宣次	南山大学国際教養学部	倫理学
	後藤崇志	大阪大学人間科学研究科	社会心理学・教育心理学
	堀口悟郎	神戸大学大学院法学研究科	憲法学
ELSI国際比較グループ (ケース集作成や日本社会適応要素を整理・分析。)	○藤村祐子	滋賀大学教育学系	教育行政学
	佐藤仁	福岡大学人文学部	教育国際比較
	高橋哲	大阪大学人間科学研究科	教育法学

プロジェクトの集大成としての本



加速する教育のデジタル化によって、
何が変わり、どのような問題が生じるのか？

学校教員、行政関係者、企業の担当者、研究者など、
教育のデジタルデータ利用に携わる人が直面する重要
かつ喫緊の課題についての現状と指針を示す。教育関
係者必読の、今まさに求められている 1 冊！

炎上事例から倫理的・法的・社会的課題
(ELSI) を解き明かし、対応策を示す！

A5 判・226 ページ 定価 2,970 円 (税込)
ISBN 978-4-7795-1951-2

本の構成

第Ⅰ部 EdTechとその倫理的・法的・社会的課題（ELSI）

- | | | |
|----|-----------------------|-------------|
| 1章 | EdTechの歴史と分類 | 塩瀬・村上 |
| 2章 | “炎上”事例からみるEdTechのELSI | 若林・岸本 |
| 3章 | 米国をミラーに、日本の現在地を映す | 藤村・佐藤・高橋・若林 |
| 4章 | ELSIに対応するための社会技術アプローチ | 岸本 |

第Ⅱ部 倫理学・憲法学・社会心理学から見た論点

- | | | |
|----|----------------------|----|
| 5章 | 倫理学から提起するEdTechの検討課題 | 神崎 |
| 6章 | 「AI教師」の憲法問題 | 堀口 |
| 7章 | 誰が、何を、なぜ、受容するのか | 後藤 |

第Ⅲ部 学校教育を問い直す——AI利活用が開くパンドラの箱

AIが「あたりまえ」の教室

「個別指導塾」と「教師へのアドバイザー」が教室内に常駐するイメージに近いか

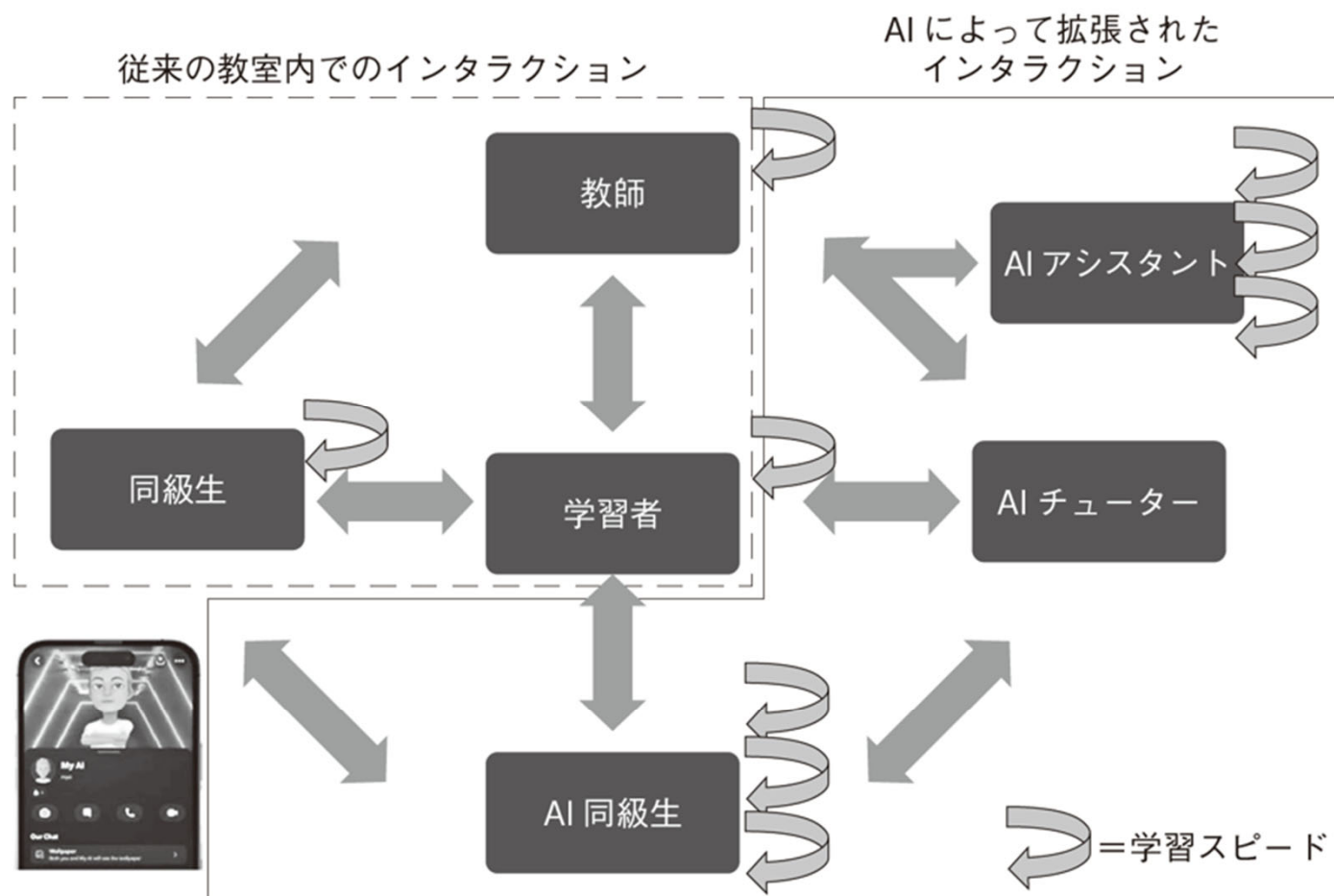


図 8-1 AI と人間（学習者・教師）とのインタラクション

(Teaching Compass (OECD 2025) Figure 3 を改変)

子どもをどう守るか？

	欧州型	米国型	豪州型	日本型
原則	人権（子どもの権利）保護	市場と人権保護のバランス	子どもは子どもらしく	同床異夢？
特徴的な動向	・ AI法 ・ GDPR（一般データ保護規則）	・ 企業団体の誓約 ・ FERPA、COPPA等保護者や子ども向け法律	16歳未満にアルゴリズム型のSNS禁止	・ 個人情報や著作権保護強調のガイドライン ・ 市場推進型のAI法

3つの根源的な問い

第9章

座談会1 人間の教師がすべきことは何か

教育におけるデジタルとアナログをめぐって

話し手：神崎 宣次 高橋 哲 村上 正行

近年、教育現場のDXがかなりの勢いで進んでいる。たとえば、教師が日々行ってきた採点という仕事がある。これが自動採点システムに置き換わっていくと、何がもたらされるのだろうか。現場の負担が減ることもある一方で、こぼれ落ちていくものがあつたりするのだろうか。また、児童生徒が生成AIをいつ、どのような範囲で利用することが望ましいのか、といった点も多くの関心を集めている。教育に携わるすべての人に関わる、デジタル化がもたらす意義や新たな課題について見つめ直し、デジタルとアナログのバランスについて考えていく。

第10章

座談会2 物理的・制度的な学校の役割とは何か

AIで揺らぐ「学校」と残る「学校」

話し手：岸本 充生 佐藤 仁 塩瀬 隆之

新しい技術を導入したからといって、すぐに成果が現れるとは限らない。EdTechも先生や生徒が慣れるまではむしろうまくいかないことのほうが多いはずだ。しかし、AIが作り出す完璧な要約文は、いままで学校で課されていた読書感想文という宿題を根底から打ち壊すほどのインパクトがあった。その使用に学校が躊躇するのは容易に想像がつくが、学校でAIの使用を避けるのが正解なのか、むしろそのような宿題を課することの意味そのものが揺らいでいるだけなのか。わたしたちが「学校」というものを今一度とらえなおす機会として、EdTech導入場面を考える。

第11章

座談会3 AIの補助からいつ・どのように自律するのか

教育における「人間中心主義」を問い直す

話し手：後藤 崇志 藤村 祐子 堀口 悟郎

AIの開発・活用については、「人間中心」というコンセプトがグローバルスタンダードとなっており、最終的な判断は人間が行うべきだといわれている。このような人間中心主義は、教育という領域において、いかなる意味を持つのか。子どもがAIの助言通りに学習を進めたり、人間の教師ではなくAIが教育上の決定を行ったりすることには、どのような問題があるのだろうか。本座談会では、教育学、心理学、法学の観点から、教育における人間中心主義を問い直したい。

